

2016 年 9 月 2 日、特定非営利活動法人セブン・ジェネレーションズは、沖縄県東村高江の自然環境と住民の生活を脅かし、沖縄の人々に過度な精神的苦痛を強いる米軍のヘリパッド建設取り止めを求め、以下の声明を発表しました。

「私たちセブン・ジェネレーションズは、持続可能で公正な未来を実現するために目覚め続ける世界市民のコミュニティを育むことを使命とする特定非営利活動法人です。この世界における環境的持続可能性、社会的公正、精神的充足の実現を目指す私たちにとって、現在沖縄県東村高江で行われている米軍・ジャングル戦闘研修センターのヘリパッド建設は看過することのできない行為です。米軍のヘリパッド建設中止を求めるとともに、日本政府による、工事に反対する市民の強制排除を即時停止するよう求めます。

ヘリパッドの建設が進行するやんばるの森は、絶滅危惧種や希少種を含む固有種が生息する、多様性に富んだ自然環境を有しています。生物多様性の宝庫とも呼ばれるこの森は米軍の所有でも日本の所有でもなく、後の世代に対して保ち引き継ぐべきものと私たちは考えます。このやんばるの森の破壊を止めることは私たちが母なる地球に対して果たすべき務めであり責任です。

高江の人口は現在約 140 人と言われています。その中でヘリパッド建設に賛成している人は一人もいないと琉球新報は伝えています。「自分の家で普通に暮らしたい」という願いから非暴力抗議と説得のため、テントを張り工事現場に座り込みを行う市民に対し、国は日本全国から機動隊員を派遣し暴力的とも言える強制排除を行っています。社会的に力を持たず周辺化された人々の願いと希望を力と権力により蹂躪することは、私たちセブン・ジェネレーションズが掲げる「人・対話・つながり・プロセス」という価値観に反するものであり、社会的に不公正を生み出すシステムを補強するものに他なりません。このような社会的不公正を拡大する行為に対し、私たちは抗議の声を上げます。

破壊的な行為はその行為の被害者のみならず行為者の精神をも傷つけ充足感を剥奪します。地元の人々の反対を抑圧し、望まれないヘリパッド建設と環境の破壊を決定し実行すること

は、抑圧され排除される人々の精神的な充足感を奪うだけでなく、主体者である米軍および日本の為政者、そして抗議活動の最前線で強制排除に当たる機動隊員らの精神的健全さも著しく損ないます。私たちは、住民の幸福と人格権を侵害するのみならず、職務上の命令を遂行させるために、体制側の人々から人としての愛情と喜びを剥奪するような政治的意思決断の撤回を求めます。

高江で起こっている破壊と搾取の構造は、世界中で起こっている環境的持続可能性、社会的公正、精神的充足という側面における危機的状況の縮図と言えるものであると考えます。建設を取り止め破壊の進展を止めることは、持続可能で公正な未来を実現させるために重要な課題であると私たちは考えます。」